

廃止の危機にあった地方鉄道の存続に向けた取組 [長野県上田市]

廃止の危機にあった別所線に対して、市長のリーダーシップによる公的支援を決め、事業者と運行協定を締結。また、関係団体で協議会を立ち上げ、再生計画を作成。市、鉄道事業者、市民団体が三位一体となって別所線の存続のために取組を行っている。

公的資金の投入については、別所線の果たす役割が交通だけでなく、観光、環境、教育の面でも重要であると説明している。

キーポイント：市長のリーダーシップによる鉄道事業者への公的支援と市、鉄道事業者、市民団体が一体となって地方鉄道存続のために取り組む。

○別所線

別所線は、観光地の別所温泉と上田駅の間を約 30 分で結ぶローカル線である。沿線には、文化財が多く点在し田園風景が広がる地区をのどかに運行している。

かつては、上田盆地には縦横無尽に鉄路が張り巡らされており、5つの路線で全長 57.2km にも及んでいたが、昭和 40 年代までに廃線になり、現在では別所線 11.6km を残すのみとなった。

○過去の別所線存続の危機

昭和 40 年代までに旧上田交通の鉄道の 5 路線のうち 4 路線が廃止され、昭和 48 年には残っていた唯一の路線である別所線の廃止の申し出があった。その当時、通学の足を守りたい地域住民や観光客の足を守りたい別所温泉の旅館組合等に危機感が生まれ、住民が主体となり市などに陳情を行うなど積極的な存続活動が行われた。こういった過去の経緯が、現在の取組に結びついている。

○別所線に対する公的支援の経過

- | | |
|--------------|--|
| 平成 14 年 10 月 | 別所線廃止論が再浮上、上田交通から公的支援の陳情書提出 |
| 平成 15 年 6 月 | 市長を本部長とする「別所線存続緊急対策本部」を設置
利用促進、会社経営、設備投資の部会に分けて検討 |
| 平成 16 年 12 月 | 安全対策を核とした内容の公的支援を決定
3年間（H16～H18 年度）の運行協定を締結 |
| 平成 17 年 10 月 | 上田交通の鉄道部門を分社化し、上田電鉄が発足 |
| 平成 19 年 3 月 | 引き続き、3年間（H19～H21 年度）の運行協定を締結 |

【運行協定の支援内容】

- ＞国、県、市の協調補助
 - ＞鉄道輸送高度化事業補助金の市独自のかさ上げ、その対象にならない設備投資、安全のための修繕に対しては全額支援
 - ＞平成 17 年度から運行経費の補助
 - 鉄軌道用地に係る固定資産税相当額、都市計画税相当額、償却資産のうち構築物に係る固定資産税相当額
 - ＞平成 19 年度からは、鉄道業務に係る駅舎の固定資産税相当額も支援の対象として追加
- 当初の公的支援決定の経緯を十分に踏まえて、安全で継続的な運行維持を念頭に、国及び県と協調を図りながら安全対策のための設備投資を中心とした支援を今後も継続していく。

○「別所線再生支援協議会」と「上田電鉄別所線再生計画」

平成17年2月には、関係する25団体により、別所線支援の中心的な存在となる「別所線再生支援協議会」を設立し、5年間にわたる「上田電鉄別所線再生計画」を策定し、同年6月に北陸信越運輸局に「地方鉄道再生事業」として承認された。

再生計画では、国、県、市の協調補助による安全対策、またはサービス改善等の設備投資補助、関係団体と連携した利用促進活動など、別所線への再生支援を行ってきた。

協議会メンバー

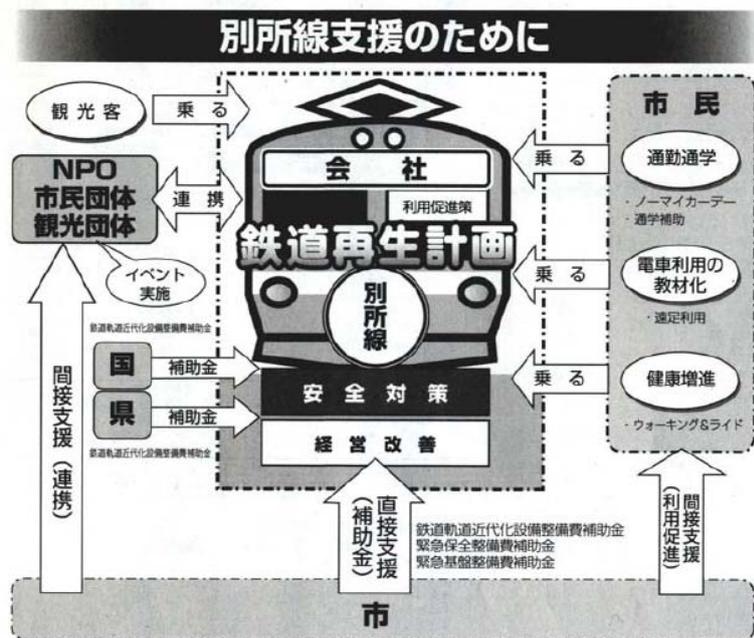
【構成団体】

上田市、上田市議会	上田市教育委員会	長野県（企画局）
上田市自治会連合会	上田商工会議所	上田観光コンベンション協会
別所線電車存続期成同盟会	別所線の将来を考える会	
別所線の存続を求める市民の会		
別所温泉観光協会、別所温泉旅館組合	上田市婦人団体連絡協議会、上田市福寿クラブ連合会	
上田市PTA連合会、上小高等学校校長会	長野大学、上田女子短期大学	
信州うえだ農業協同組合		
東日本旅客鉄道株式会社、しなの鉄道株式会社、千曲バス株式会社、上電バス株式会社		
上田交通株式会社、上田電鉄株式会社		

【オブザーバー】

国土交通省北陸信越運輸局鉄道部

協議会は上田電鉄（株）と上田市を事務局として、上記メンバーで構成されている。「乗って残そう」をキーワードに、3つのチーム（安全運行・経営改善対策チーム、通勤・通学・日常生活利用促進対策チーム、観光・イベント・沿線活性化対策チーム）を作り、事業を行う際に関連するような団体に声を掛け合って協力体制を取りながら、様々なイベント開催等の活動を行っている。



○別所線の輸送実績

別所線再生支援協議会を中心とした利用促進活動の結果、平成 19 年度の輸送人員は 10 年ぶりに増加に転じた平成 18 年に引き続き、2 年連続の増加となった。

再生計画の想定では、何の施策も行わない場合、過去の実績通り減少する予測だったが、再生計画を確実に実施する場合には、利用者の増加が見込まれた。実績についてもこれに近づき、平成 19 年度には目標を達成、わずかに上回る結果となった。平成 21 年度には輸送人員 126 万人を目標として定めている。(下図)

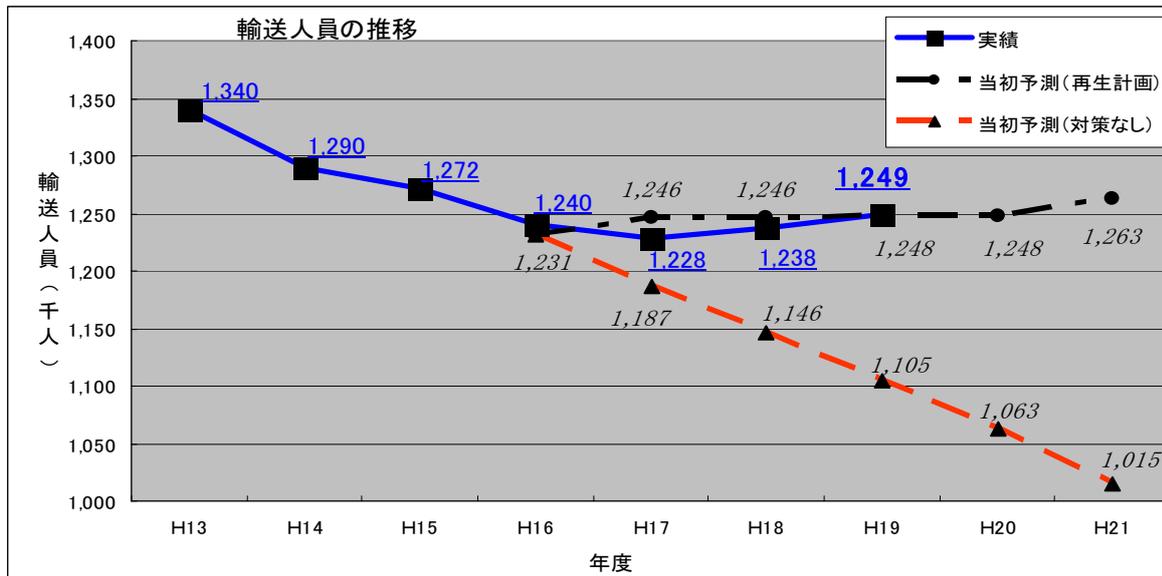


図 再生計画の予測値と輸送実績

○別所線利用促進のための取組

市、交通事業者、地域の住民が三位一体となって、「乗って残そう」をキーワードに利用促進策に取り組んでいる。

・自治会回数券の配布

別所線電車存続期成同盟会が自治会回数券の販売を斡旋している。平成 12 年頃から有効期間が半年で割引率が 15% の自治会回数券は販売していたがあまり知られていなかったこともあり、購入者数は横ばいが続いていた。しかし、平成 18 年に有効期間を 1 年に変更するとともに、沿線自治会への回覧板、市の広報誌、有線放送での周知、全戸への申込書の配布、各駅へののぼり旗の設置など積極的な PR を図ったことにより、購入者数は増加している。

・パーク&ライド駐車場の整備

別所線利用者のために、パーク&ライド用の無料駐車場を 3 駅で整備。大学前駅では、上田電鉄の土地を利用している。また、舞田駅と中野駅では市民の方から無償で土地の提供を受け、沿線自治会と別所線電車存続期成同盟会が自らの手で駐車場を整備している。キス&ライド用のスペースとして使われることも多い。



大学前駅



舞田駅



中野駅

・ラッピング車両の導入

平成 20 年度には、「地域公共交通活性化・再生総合事業」に国から認定を受け、画家の原田泰治先生にデザイン頂き別所線の車両のラッピングを施し、平成 20 年 10 月より運行している。また、ラッピング車両の運行に当たっては、原田泰治先生を迎えて盛大に出発式を行った。



ラッピング車両の出発式

・チラシの配布

市内の全ての高校、沿線の大学、駅、市役所や病院等の公共施設、商工会議所等に別所線再生支援協議会と別所線電車存続期成同盟会で作成した「別所線に乗ろう！」のチラシを配布している。裏面には時刻表を掲載。

・利用促進イベントの開催

別所線を活用したイベントとして、電車貸切ライブ、駅長のハーモニカ演奏や別所線沿線写真撮影会等が行われている。これらのイベントの中には、事業者が住民と細かな調整を行っているのではなく、住民自らが細部にわたり企画しているものもあり、イベント自体の話題づくりにもなっている。

事業者としても、イベントの実施は集客を目指すものではなく、宣伝やPR効果を目指すものであり、別所線ではいつも何かやっているという情報発信と考え、成否はこだわっていない。



電車貸切ライブ



駅長のハーモニカ演奏



写真撮影会

○公的支援に対する住民との合意形成

別所線への公的資金の投入について、上田市は合併により区域が拡大したため、沿線に住んでいない市民の方々に対しては、別所線の果たす役割が、交通だけでなく観光、環境、教育の面でも重要であることを説明することにより、ある程度理解頂いている。

また、別所線だけでなくバスも含めて公共交通全体について話をしないといけない。実際に市では、乗車人員に応じてバスと鉄道でほぼ1対1の割合で運行補助を行っているが、鉄道だけに補助しているように感じている住民が多い。鉄道再生においては、こうした点を明確に説明していくことも重要である。

別所線はたまたま市域の中にある鉄道ということで、上田市単独で意志決定ができたということも公的支援に至るまでの大きな要因であったと言える。

[長野県上田市都市建設部地域交通政策課]